

乳幼児の発達課題で、満 1 歳までに獲得しなければならないのが「基本的信頼感」の形成です。

この「信頼感」は、大人になっても友情や愛情、家族や組織に欠かせないものです。相手との信頼がなければ、市場取引は破綻しますし、国家の機関や指導者に信頼が欠如していれば、政治の合法性は崩れてしまいます。

最近、スイスのコスフェルド博士らの研究グループは、「ホルモンの一種であるオキシトシンの投与を受けた人では、人間同士の信頼がおおいに高まる」ことを立証する論文をネイチャーという超一流の科学雑誌に発表しています。

このオキシトシンは、出産後の母体の子宮収縮作用をもつことは昔からよく知られています。この増加しているオキシトシンが、出産後の母親とこどもの愛着形成にも関与しているようです。

満 1 歳までに「基本的信頼感」がうまく形成された子どもでは、その後の発達も順調に進みます。赤ちゃんが泣いたときには、しっかりと抱きあげて安心させてください。